

平成 29 年 9 月 30 日

各 位

ISNA 日本スヌーズレン総合研究所

所長 姉 崎 弘

(常葉大学教育学部教授)

<http://www.snoezelen-research.jp>

第 1 回スヌーズレン教育研究会開催のご案内

中秋の候 皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本研究所の研究活動並びに研修活動にご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

さて、別紙のとおり、平成 29 年 11 月 4 日(土)に静岡駅のパルシェ 7 階の第 1・2 会議室を会場に、ISNA 日本スヌーズレン総合研究所主催による「第 1 回 スヌーズレン教育研究会」を開催する運びとなりましたので、ご案内を申し上げます。今回は「しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」に採択されましたので、参加費は無料です。

本研究所は、2 年前より教育・福祉・医療等の分野において、スヌーズレンの正しい理解啓発のための研究および研修活動に取り組んでまいりました。具体的には、年 1 回の機関誌「スヌーズレン教育・福祉研究」誌の発行、年 3~4 回のスヌーズレン研修(研究)会の開催、さらに日本特殊教育学会等でのスヌーズレンシンポジウムおよび研究発表を行ってきております。

わが国では、今日多くの特別支援学校でスヌーズレンの授業実践が行われており、年々実践する学校が少しずつ増えてきております。また障がい者施設や病院の中でも多く実践されてきております。

今日、小・中学校の通常学級に在籍する発達障がい等の児童生徒に対する指導・支援のあり方が問われています。多くの学校で、指導や支援の方法を模索しながら取り組んでいるのが現状です。

今回のスヌーズレン教育は、1970 年代にオランダの知的障がい者施設で始められたスヌーズレンの取り組みを、学校教育に「スヌーズレン教育」として適用を図ったものです。主に視覚刺激や聴覚刺激等を用いた多重感覚環境を別室に設定して、対象児の興味のある活動を通して、リラクゼーションや教師との共感的触れ合いを重視して、対象児(一人又は複数)の心理的な安定を図り、教師や仲間との信頼関係を培うことで、対人関係の改善やコミュニケーションスキルの向上等を図り、生きる力を高める教育方法の一つです。

案内チラシにございますが、当日は、私の基調講演「通常学校の発達障がい児等へのスヌーズレンの授業の可能性について」の他に、通級指導教室担当教員による実践報告、常葉大学教育学部 4 年生による実践中間報告、さらに特別支援学校教員による実践報告と教材・教具の紹介がございます。現場の先生方の日々の実践に役立つ内容になっております。

何かとご多用の時期とは存じますが、ぜひ職場の皆様にご案内の開催についてご案内下さいますよう、何卒ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

敬具